

# かたおが自慢 子ども新聞

区り会会  
地く部  
岡づ議  
笠ち化  
ま協文

## 龍宮城の部屋 びんりびんり

多宝塔の中には、たくさんのお絵が部屋いっぱい描いてあります。四メートル四方のせまい部屋の真ん中に、仏様が座る台があります。仏様の名前は大日如来です。今は、遍照寺の本堂にまつられています。天井には、こわい顔をした龍がとんでいました。にらみつけるような目にびつくりしました。龍は、大きくてはく力があり、今にも飛び出してきた絵です。

まわりの板のかべには、身分の高



いお坊様が、すきまがないくらいびつしりと描いてあります。入口を入ったすぐ右には、有名な弘法大師というお坊様。そして柱には、守り神様やお釈迦様のお弟子様が描いてあります。どの絵も赤や青、緑や黄色



などたくさんのお色を使つてカラフルに描かれています。木のかべにはインドから中国を通つて日本に仏教を伝えたお坊さん八人。柱には、地・水・風・火・月・日などの神様と部屋を守る神様が合せて十二人描いてあります。多宝塔の中は、いままでも入ったことのないふしぎな部屋でした。四百年間、まだ一度もぬりかえたり修理をしたりしていないのに、描いた時のままのきれいな色が残っていることにおどろきました。



### おまけの話

多宝塔のとなりには、大きないちようの木があります。そのいちようは、約四百年前に多宝塔を建てた記念に植えられました。幹の太さは四人で手をつないだ時と同じ長さで約五メートルあります。ちなみに、いちようは一九七二年に市木(しばく)に指定されています。また、一九八二年には市の花に「きく」。二〇〇二年には市の魚に「しやこ」が指定されました。



近所に住んでいるおばさんは、「昔は木に大きなゴイスギという鳥が巣をつくつて子育てをしていた。秋には、近所のおばさんが集まってギナンを拾いながら一日中おしゃべりをしていました。ギナンは茶碗むしに入れるとおいしいですよ。」と話してくれました。

多宝塔の新聞作りで一番心に残ったことは、塔の中に見たこともないたくさんのお絵があつたことです。多宝塔の中には宝物が入っていないと聞いていましたが、この絵はぜったいに守らなければならぬ岡の宝物だと思いました。

(四年 廣井 千温)